



赤めだか

立川談春著
扶桑社 2008



人類は絶滅を選択するのか

小原秀雄著
明石書店 2005



グリーン経済最前線

井田徹治 末吉竹二郎著
岩波書店 2012 (岩波新書)

商学部准教授 植田 敦紀

上掲の3冊はジャンルも執筆年も異なり、何の関わりもないようだが、ある読み手にとっては、その本を手にとったときの境遇・環境、思考状況によってそれらが繋がって関連を持ってくる。そして一読者のちっぽけな思考の中に新たな思考回路が生まれ無限に広がる。そんな可能性を引き出してくれる読書は楽しい。

「世の中のもの全て人間が作ったもんだ。人間が作った世の中、人間にこわせないものはないんだ」(立川談春『赤めだか』より)これは、本書の中ではカレーについての記述である。しかし私の研究領域である環境問題ならびに会計制度に見事にあてはまる。

1992年の地球サミットにおいて Sustainable Development が世界が目指すべき目標となった。新入生の皆さんが生まれたときにはすでに地球環境問題があり、特に危機的状況と意識することなく過ごしてきたかもしれない。小原秀雄『人類は絶滅を選択するのか』では、環境問題による危機の論拠を示している。現代人間社会は物質的繁栄が従来の可能性を大きく上回り、より完結的な人工物質に閉じ込められる生活となった。人工的世界の成立とその質量の大きな

変化が人間の適応変化のスピードに比べて大きくなり、「自己人為淘汰」による身心の「自己家畜化」が人間の知性を喪失させる「奴隷制」的な可能性を進行させ、自然の進化の性質も変化させていく。

そして井田・末吉『グリーン経済最前線』では、経済危機から抜け出せない先進国、資源不足と環境汚染に悩む新興国、貧困に苦しむ途上国、気候変動、原発事故、これらを20世紀型経済の負の側面であると述べ、資源消費を減らし、自然との共生を目指すグリーン経済に向けた世界の試みを紹介している。

私の研究はこのような危機に対し会計的アプローチにより問題解決を図ることである。しかし環境問題のような外部不経済を内部化する際、既存の会計制度では対応しきれず、新たな制度の構築が必要となる。制度は人間を幸せにするためにある。幸せにしない制度は作りかえればよい。権威ある制度に縛られ、必要なことを見失わないようにしなければならない。

全く違う3冊の本からこのような思考が広がる。新入生の皆さんも読書により大いに思考を広げ読書を楽しんでください。